発行所
三池炭鑛勞働組合
大牟田市不知火町
電話3033番
炭電 528 475 番

編集兼発行人　平島敏治
三鉱労組印刷工場

三鑛労組
機関紙

闘争態勢揺がず

本所金子支部長らに爆弾動議

機関構成中央委員會

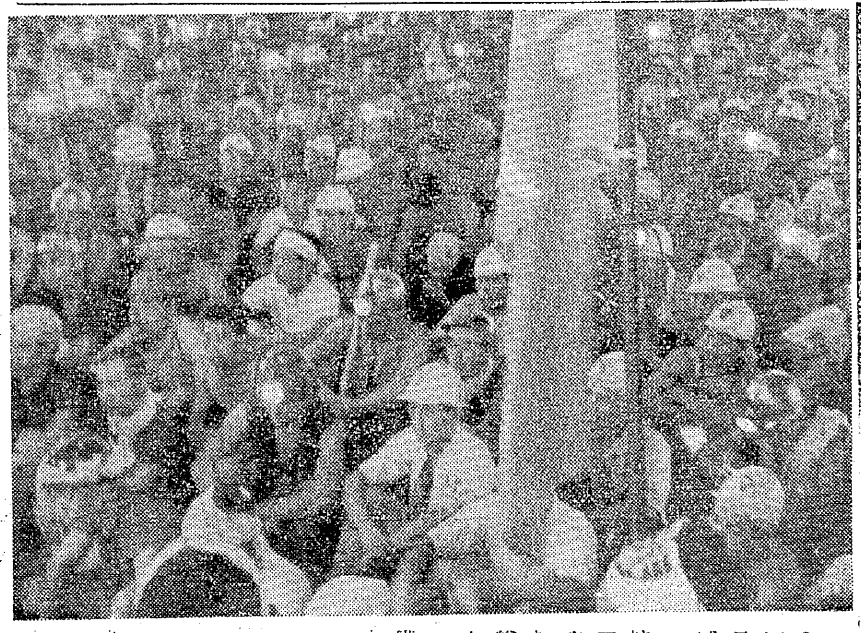
改選後初の機関構成中央委員会は廿四日午前十一時から労働会館で開催、四山の中田氏を仮議長に山崎週管委員長の経過報告を諒解、新役員の紹介に先立ち三川支部勇川委員発言を求め所属或いは支持政党名、奥さんが炭婦協に入つているか否か等を自ら表明するよう提案、過半数の賛成を得て本部、支部共役員一人々々がその点を明確に自己紹介したが本所支部金子支部長、大津教宣部長の順番に成るや「支部政党社会党右派、炭婦協には加入していない」との事に場内からゴウゴウの非難の声が湧く。終つて共産党足立忠雄氏のメッセージ、があつてのち組合三役の選出に入り、組合長に宮川睦男氏　副組合長浦川守、菊川武光両氏　書記長河野昌幸氏が夫々立候補異議なく承認決定、議長、副議長は支部議長団の互選により議長に小島以是（三川）副議長に加藤友明（港務）中村三一（四山）の三氏を決定、こゝで議長交代し監事、監事長の選出に入つたが、立候補者一名もないまゝ水元、上田、竹原、古賀、竹下、藤木の六氏が推薦された。

然し水元氏を除いてすべて辞退を申出でたゝめ相当手間取つたが結局本部役員を対象に無記名投票を行つた結果、上田時男、竹原運也水元藤広の三氏が当選、監事長に上田氏が推され、これで機関構成を終り夫々の代表から挨拶が行われた処で宮浦支部の武安委員から「執行部員、委員である以上自分の配偶者を必ず炭婦協に入れるべきだ」との緊急動議が出され、これが論議の過程に於て冒頭の自己紹介に於ける金子、大津両氏の線が浮かび出し、両氏の釈明が会社側の云い分と全く同じだと云うので議場は騒然に沸き立ち、武安委員の動議が採択された直後、今度は三川の寺田委員から両氏の信念及指導理念が最早現在の組合活動の段階とマッチせず、組合幹部として不適格だとの理由で両氏に対する不信任動議が出され、議場は益々沸騰、種々論議が闘わされたが、結局組合規約第十七条に依り支部役員の罷免は支部委員会で決定する事になつて居り、本所支部田村議長から「支部の自主性に於いて本問題を解決つけるため速刻表で支部委員会を開きたい」旨要請、議長はこれを容れて中央委員会を一時休憩を宣す。

金子 大津 両氏遂に辭任

物を云つた炭婦協の壓力

（本所支部金委員は会場を出て書楽堂前で急拠支部委員会を開き両氏の釈明を聞いたのち山村議長から「両氏の奥さんに速刻炭婦協に入つて貰う、両氏に対しては種々批判もあるが、暫く組合役員としての今後の行動を見守る事としたい」旨を諮つたが永田（鑑）永田（弘）戸畑各委員らが「問題は単に両氏「支部委員会で決定すると云う事にたつているのだからこゝで意志を表明せよ」と詰めより傍聴者もしきりに再幾を送り圧力をかけた結果遂に両氏から「不信任を御受けする」旨意志の表明がなされ両氏の辞任を認めるかどうかで採決の結果僅か一名を除き、全員起立して辞任に賛成、中央委員会は再開して山村議長から右の経緯を報告、満場割れるような拍手のうちに金子、大津両氏不信任の一幕は終りを告げたが、中には炭婦協に加入して居るか居ないかではなく両氏のこれまでの行動が批判されているのだ」と強く反撥この間村田委員から金子氏の過去の功績をたゝえる辨護論も飛び出したが、各支部委員がグルッと取り巻く注視の中にあつて大多数の委員は右のように獄し、再度金子氏が釈明に起つたが、折柄赤旗を先頭に本所その他の炭婦協がワッショ〜〜とデモをかけて来たのですつかり立往生の形で、遂に意を決した金子氏は「中央委員会で率直に意志を表明する」と発言したが、これに対しても永田（鑑）委員「支部委員会で決定すると云う事にたつているのだからこゝで意志を表明せよ」と詰めより傍聴者もしきりに再幾を送り圧力をかけた結果遂に両氏から「不信任を御受けする」旨意志の表明がなされ両氏の辞任を認めるかどうかで採決の結果僅か一名を除き、全員起立して辞任に賛成、中央委員会は再開して山村議長から右の経緯を報告、満場割れるような拍手のうちに金子、大津両氏不信任の一幕は終りを告げたが、中には炭婦協男氏が夫々繰上げ決定した。



永久にわれ等の記憶に刻み込まれるであろう、あの日、あの時、そこからわれ等の勝利への前進が始つた。

（山ノ上にて）

各地で活発な運動

總評、三鉱合同オルグ

山口地方　池田オルグ發

總評第五回幹事会決定による総評と三井炭労の合同編成オルグは、去る十月二十日より全国、全地域で活動を展開中である

西鉱連より山口地方には、西鉱連執行委員長池田利治氏、三鉱労組書記次長山下一二氏を派遣した。両氏のオルグ使命は総評の秋季闘争の突破口として、全労資間注視の二ケ月以上に及ぶ企業制備闘争の生々しい現地情勢を踏え、総評決定の資金カンパ一人当十円を十一月末迄に三鉱連への必着を期すためである。山口地方のオルグ活動は次の通りである。

十月二十日山口県労を訪ね、今後の行動日程その他について山口県労三役と打合せを行い、翌二十一日宇部地協参加組合、代表者数十名の参加をみた地協会議にて、池田委員長山下書記次長より夫々四時間に亘る詳細なる闘争の実態を報告し、活発なる質疑応答をくりかえし、深い感動を与え、地協委員長より総評決定の十円カンパのみでなく更に拡大した援助を行うべきであるとの挨拶をうけた。つゞいて山口宇部炭鉱の書記長園田氏より三井とは炭労結成以来親交厚き仲なので炭労決定の百円カンパは既に徴収済みで、速やかに中央へ送金する旨述べられ、山下書記次長と固き握手を交す感激の一幕もあつた。明二十二日は小野田地方、二十三日徳山地方、二十四日下関地方、その後の日程は未定

スト破りと對決

旭ガラス牧山工場勞組の闘争

原田、松尾両オルグ發

十月廿日八幡工場地帯の北寄りにある旭ガラス牧山工場が在る。新聞で報道されたピケ破りのあったところ、数本の煙突の内二本のみが煙をはいているのも第二組合員籠城に依る操業と見られ、この地に於ける闘争の困難さと複雑さを感じさせる。組合事務所のスピイカーは工場内の組合員に呼びかける「工場内の組合員の皆さん、皆さんの食べる米は八幡市の非常米でならないとつくづく感じました。この拡声機から流れる声を聞きながら、組合は決して分裂させてはあり不正流出されたものであります。以下現在の闘争情況と闘争経過を知らせます。（宮浦支部原田）

牧山工場は組合員約三千八百名と職員労働者の組織である。牧山労組（約七百名）とがあり、闘つているのは本組合牧山労組であります会社は十月七日未明約三百数度の人員で海上よりピケを破り工場内に侵入、八日よりの操業しています その後も会社は第一組合員の切り崩しを図り、この頃では単独の組合員を発見するやハイヤーに押し込み門司方面に運行し、その後船にて工場に入れると謂う様な方法を行つてスト破りに狂奔しています。この様な事で現在では工場内も約千百名近くの人員に達しています。勿論海上にピケを張つているそうですが、会社は千屯級の大型船で来るので手が出ないと謂うのが真実たそうです。組合としても海上封鎖に対するキメ手も無く非常に苦境に立つている状態です この状態を打破すべく北九州、総評等に依り守勢より攻勢への戦術が討議されています。

闘争の経過ですが当面の争点は定員制の適正化と謂う事ですが、牧労が企業の運合体から脱して合化労連に加盟する、この様に闘う組合の骨抜きに会社の意図はある様です。（四山支部松尾）

前進

勝利の日は近し

内外注視の的であつた改選の結論は遂に出た。今次の改選で会社の干渉は目にあまるものがあつたにも拘らず、前執行部、決議機関の悲願であつた闘争継続強化のための任期延長の精神が生かされて、執行部員のほとんどが再選され、且拒否者の大多数が中央委員として選挙されたことは、如何に組合員大衆がこの闘争が正しいものであるかを立証したものである。

× ×

又組合員のほんの一部に職制の圧力に負け、反組合的な行動をとり己の首を締め、同志を裏切るような行為をなした人があつたのも否めない事実である。同初の中央委員会で炭婦協問題に端を発した。その指導方針や信念が、現在の熾烈な闘争にマッチしないとして、批判をなし自らが選んだ人に不信任を出さなければならない不幸な事態が起つた。この不幸な状態は禍を変じて幸とさなければならない。この改選や不信任の問題で組合内部に感情的な対立を生ずるような状態が起きたとすれば、それこそ会社の思うツボである。今事態は急変しようとしている。こゝで組合内部にヒビが入るような状態ともなれば押して押しまくつている現在の圧力がくじけて、三池の改選に淡い希望をかけていた会社の期待に添うような結果となる。

× ×

二十四日の中央からの情報によると「企業整備の事態収拾のため団体交渉をもちたい」と山川社長が申入れをなして来ている利潤を追及する資本家羅が二、三の会社幹部のメンツだけで大打撃をうけるような経営はそう永く続くものではない。吾々に闘う態勢は出来上つた。

一喜一憂することなく、団結を益々固めて闘い抜き、勝利の栄冠を目ざして前進をつゞけよう

會社に焦燥の色

山川社長から團交申入れ

【三鑛連電話情報】本日（廿四日）午後一時十分會社代表山川社長より三鉱連に対し次の如き申入れがあつた。

【申入本文】今次企業合理化に関し事態收拾のため貴方と團体交渉致したく申入れます。

新事態に対処するため三鉱連では廿四日午後中闘委員会を開催次の要旨の回答を行つた。

紛争はもとより当方も好むところではないので拒否しないが、紛争原因と当方山元大衆の意向を深く考慮されることを要望、申入れをお受けする。

なお早急団交開催の動きに対して三鉱労組からも宮川、古賀中闘等が急遽上京した。

本部機關構成

組合長　宮川　睦男
副組合長　浦川　守

本部支部　機關構成決る

三役陣は宮川氏等再選

〃	菊川　武光
書記長	河野　昌幸
〃次長	山下　一二
〃次長	古賀　定
総務部長	島田　信一
労働部長	木村　正隆
教宣部長	北岡　隆
組織部長	古賀　徳繼
政対部長	花園　憲一
調査部長	竹下　泉
編集部長	平島　敏治
厚生部長	吉富　正信
財務部長	藤木　勝敏
監事長	上田　時男
監事	水元　盛廣
監事	竹原　達也

支部機關構成

△三川

支部長	酒井　善爲
副支部長	松村　盛正
総務部長	福島　進
労働部長	谷端　一信
教宣部長	山田　一男
厚生部長	益田　武利

△四山

支部長	松本　勇
副支部長	前川　高之
労働部長	山崎　興一
教宣部長	深草　由之
厚生部長	浦野　勇明

△宮浦

支部長	野方　重男
副支部長	原　登士男
労働部長	古賀　春吉
教宣部長	小川　芳郎
厚生部長	久保田　菊一

△本所

支部長	塚元　敦義
副支部長	中川　原末松
労働部長	中川　末義
教宣部長	浦本　由男
厚生部長	堀川　幸男

（次点繰上げ）

△港務

支部長	辻　辰美
副支部長	藤木　幸博
労働部長	橋本　磨
教宣部長	江崎　達也
厚生部長	木原　照夫

△製作

支部長	北原　一男
副支部長	石橋　進
労働部長	小宮　勇介
教宣部長	中原　勝喜
厚生部長	荒木　勝